

「日本共産党羽村市議団アンケート」から市民の声特集

市民の要求・願い実現に向けて全力で頑張ります

高齢者・年金暮らし

デイケアサービスの価格が高い。介護保険料を引かれるため年金が少なくなり生活に困っている。自分を含めたこの先の生活。老後を深く考えどうにもならぬ現状です。老後の介護が一番心配。現在週2時間の介護ももっと使えるように。夫婦2人暮らし。60才後半。中途半端に元気です。医療の3割、介護保険など何とかやっ払いと意地で頑張っていますがストレスがたまりうつ病も近いような。高齢者住宅を増やしてほしい。平成20年4月まで国民年金は51833円(月25916円)だったが平成22年度では37233円(月18616円)の支給となり月に7300円も減りました。これは後期高齢者医療が導入されたからです。これで生活がよくなるはずはありません。

国民年金だけでとても大変です。67才まで働きました。いかに医療費をかけないかに精一杯。かなり悪くても我慢です。家から出るとお金がかかります。ぜいたくもなく人との交わりも思うように出来ません。介護保険料が高い。私の月々10万円弱の年金と次男の収入の一部で生活していましたが、数ヶ月前次男の会社が倒産。各種税金(所得・住民・固定資産・国保税)・介護保険料・高齢者医療費及び医療費負担金等で年金収入は半分が消えて生活を切りつめている。定年後の生活を考え貯蓄をしたが、就職出来ない子がいて、出費が嵩むばかり。加齢とともに医療費も増えている。

子育て・教育

子育てしながら働ける場所が増えて欲しい。保育園・学童の充実を。児童館はランドセルのまま利用出来ません。しかし、どうしても家で子どもを待たせられない日があります。親の手紙等があれば学校帰りでも児童館を利用出来るようにしてほしい。保育園に入れたい。もっと子育て支援を。保育園は4月以降の途中入園が出来なくて困る。認可外では費用負担が多い。早く働きたい。小学校で学童に入っていない子も一時預かり等をしてもらいたい。乳幼児予防接種(任意)の費用の助成。乳児検診現在午後だが子どもの昼寝の時間に当たる。時間の配慮を。子どもの学費にお金がかかり大変です。幼稚園の学費が高い。何でも民営化すればよしとするのでしょうか。保育園の民営化は質が問われます。第2子が保育園に入れるか不安。子どもが通っている幼稚園が都の認可外なので補助金が少なくて困っている。

パートで働きたい。保育園も3~5歳児は空きがあれば働いていなくても入れて欲しい。

パートで働いている。幼稚園が夏休みの時は市内の保育園の一時保育に預けている。

しかし、保育料は一日3000円で高いので驚いた。仕事を続けるにはまた預けることになるが1日3000円と思うと気分が落ち込む。せめて幼稚園が「おのこり保育」をして欲しい。生活が苦しく十分な教育を受けさせてあげられない。学童保育を4年生以降も利用できるようにしてほしい。発達障害の子どもが学区外通学を認めて欲しい。子ども手当を支給されても幼稚園の補助金が減れば意味がない。子どものアレルギー検査は身近な病院でも出来るようになると助かる。

市民のみなさんの暮らしの実態から

賞与カット(全額) 残業代未払い(7年間) 給与一部未払い、会社が倒産するよりましなので耐えている。生活すべてにおいて困っている。何よりお金が無いのが一番困る。

失業保険が切れましたが仕事が無い。格差のない社会を。会社の残業代・拘束時間が全く無視されている。長男(27)は職安に通い続け、たくさんの会社に願書を出し、面接を受けるも一向に採用されない。3月下旬から失業状態。30才を超えた長男がいまだに正社員になれない。時間もお金も余裕がなく、親をそばに呼びたくても呼べない。自分は公営の住宅にすんでいるが両親は千葉なので公営住宅に申し込みも出来ない。福生病院は土曜・日曜が休みなので入院中先生がいなくてとても不安。今は何事もなく生きていますが、この先、認知症でもなったらどうしようとか、いろいろ考えます。家族は他にいませんので。一人っ子で両親要介護です。介護のために会社も辞めました。老後のためにと貯めたお金を取り崩しつつ介護生活です。私の老後はどうなるのか、とっても不安です。知的障害者の子どもの老後の心配ないよう、親として願っています。子どもたちの仕事が安定しない。昔、老人になったら医療費はかからないと思っていたのに、法律が変わり夢のまた、夢になった。3人青年がいるが、男2人は無職、女一人はパート。とりあえずアルバイトをしているが、本業が見つからず困っている。義母を13年介護して天国に送ったが、今度は一番上の姉が90近くになり、私も75才になり将来不安。

低所得者には冷たい社会になりつつあります。老人、孫達がとても心配。今44才雇用は今までダメ。せいぜいアルバイト。本当は正社員になりたい。米軍機がうるさい。生活が悪くなった。こんな世の中嫌になる。山の中でターザンか誰もいないところにと日々思っている。給料が減り、子どもの習い事を減らしたり食事を削っている。パートで働いていたが仕事が無くなりました。賃金が下がり昇給も年齢を理由にストップ。しかし、仕事量は増え続け、生活にゆとり無し。市民税が高い。収入に占める税金の割合が高い。飲食業 お客の数が減った。一人当たりの単価が減った。リストラで仕事を探しているが無く、家庭では病人がいて医者にも診てもらえない始末。今年になって何とか仕事についたが収入が少ない。

日本共産党羽村市議団へ寄せられた市民の皆様からの暮らしの実態を
しっかり受け止め今後の議会活動に生かします。

羽村民報

2011年2月13日 1005 日本共産党羽村市議団のホームページ
発行 羽村民報編集委員会 <http://www.jcphamura.org>
責任者 野崎 衷 事務所 電話579-2132 FAX579-2106